

技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

日 時 平成24年5月25日（金）第1校時

対 象 1年4組（男子20名 女子20名 計40名）

指導者 教 諭 濱 田 和 美

1 内容及び題材名 A家族・家庭と子どもの成長

2 題材設定の理由

近年、科学技術の進歩により、わたしたちをとりまく社会はめまぐるしく変化している。家族形態の変化、高齢化社会、単身世帯の増加、共働きの一般化、余暇の重視などのライフスタイルの変化等により、家庭で行われていた清掃、洗濯、調理、育児などの家事は外部サービスや福祉サービスを利用して生活を維持する家庭が増加している。それに伴い、家庭の仕事が家庭内だけではなく、地域や自治体などの多くの人に支えられる部分が増加する傾向にある。

ここでは、小学校家庭科での学習を基盤とし、連続性や系統性を重視しながら、家族・家庭と子どもの成長について学習する。さらに、家族や家庭生活を見直すことや幼児を理解することを通して、家庭は家族の生活の場であり、衣食住や保育・介護などの基本的な要求を充足し、心の安定や安らぎを得ていることを理解させたい。また、家庭の機能について考えるとともに、家庭生活と地域社会とのかかわりや様々な家族関係、家庭の問題を解決していくためには、家族が互いに立場や役割を理解し、協力して家族関係をよくすることが大切であることに気付かせたい。

中学生の時期は、家族よりも友人と過ごす時間が増えたり、思春期を迎え、他に目が向かなくなったりして、自分の成長や生活は家族やそれにかかわる人々に支えられていることを忘れがちである。また、家族と向き合ったり、解決に向けた活動をとろうとしたりすることに消極的な傾向にある。

指導にあたっては、生活の中の身近な場面を設定し、問題解決的な学習を通して、興味や関心を持たせられるような授業を組み立てたいと考える。また、グループ活動を取り入れ、グループ内や全体での意見の共有などの意見交換を通して、家族について多様な意見を引き出すことにより、よりよい家族関係を目指して具体的な方法を考え、個々のこれからの生活に生かそうとする実践力を身に付けさせたい。

3 題材の指導目標

- (1) 家庭と家族関係、幼児の生活について関心をもたせ、家庭生活をよりよくしようとする態度を養う。
- (2) 家庭と家族関係や幼児の生活について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造させる。
- (3) 幼児の生活と家族に関する基礎的・基本的な技術を身に付けさせる。
- (4) 家庭や家族の基本的な機能、家庭生活と地域とのかかわり、幼児の生活について理解させる。

4 指導計画 (全18時間)

A家族・家庭と子どもの成長

学習内容	時数	主な指導内容
1 わたしの成長と家族 ①わたしの成長 ②わたしを支えてくれた家族や周囲の人々	2 ① ①	○ 自分の成長を家族や身近な人に聞き、年代ごとにまとめさせる。 ○ 自分の成長の発表や、友達の成長の様子を見て家族への手紙を書く。
2 わたしたちと家族・家庭と地域 ①家庭のはたらき ②家庭生活を支える仕事 ③わたしたちの家庭生活と地域	3 ① ① 本時 ①	○ 家庭のはたらきについて理解させ、家庭の仕事にはどのようなものがあるか考えさせる。 ○ 家庭生活は家庭内外の活動によって支えられていることを理解させる。 ○ 地域の活動を調べ、地域の大切さに気付かせる。
3 幼児の生活と遊び ①幼児期はどんな時代だろう ②幼児の体の発達 ③幼児の心の発達 ④子どもの成長と家族、地域の役割 ⑤幼児の遊びと発達 ⑥幼児の遊びを支える	6 ① ① ① ① ① ①	○ 幼児期の子どもの様子を紹介し、幼児期に関心をもたせる。 ○ 幼児の体の発達の特徴について理解させる。 ○ 幼児の心の発達の特徴について理解させる。 ○ 幼児の発達を支える家族や地域の役割について理解させる。 ○ 幼児にとっての遊びの意義について理解させる。 ○ 幼児の心身の発達に応じた遊びや遊び道具、周囲のかかわりについて考え、工夫させる。
4 幼児とのふれあい ①ふれ合い体験の前に ②ふれ合い体験をする ③ふれ合い体験をふり返る	5 ① ② ②	○ 幼児の心身の発達についてふり返り、幼児とふれ合う活動に関心をもたせる。 ○ 幼児とふれ合う活動を通して、幼児に関心を持ち、適切にかかわろうとする態度を育てる。 ○ 幼児とふれ合う活動をふり返り、幼児期と周囲のかかわりの大切さに気付かせる。
5 これからのわたしと家族 ①中学生と家族とのかかわり ②これからのわたしと家族の関係	2 ① ①	○ ロールプレイングを通して中学生と家族とのかかわりについて考えさせる。 ○ これからの自分と家族とのかかわりや自分の生活に関心をもたせる。

5 生徒の実態 (平成24年5月1日実施 対象:1年4組40名)

(1) 家庭の仕事にはどのようなものがありますか。

・料理	・洗濯	・そうじ(風呂, 部屋, 庭)	・洗濯物をたたむ
・食事の準備	・布団たたみ	・ゴミ出し	・新聞取り
・アイロンがけ	・買い物	・窓の開閉	・靴並べ
			・ペットの世話

(2) 自分で行う家庭の仕事がありますか。

はい 31名

いいえ 9名

(3) 2ではいと答えた人はどんな仕事を行っていますか。

・配膳・皿洗い…… 13名 ・ふろそうじ…… 11名 ・料理…… 5名
 ・洗濯物を干す, たたむ…… 13名 ・そうじ…… 4名 ・洗濯…… 3名
 ・片付け… 2名 ・ペットの世話… 2名 ・ゴミ出し… 2名 新聞取り… 1名

(4) 家庭の仕事はどのように分担されていると思いますか。

・基本的に親がする…… 32名 ・家族みんなです…… 5名
 ・自分のことは自分です…… 3名

〈考察〉

アンケートの結果より、家庭の仕事への関心があり、自分で行う仕事がある生徒は全体の8割近くであった。さらにその内容も衣食住多岐にわたっていた。しかし、家族のための仕事（介護や育児）は分担されていないことがわかる。さらにほとんどの生徒が家庭の仕事の分担について「基本的に親がしている」と回答していることから、主体的に家庭生活に参加しているとは言えない。併せて家庭の仕事が家庭外に支えられていることに気付いていない生徒が多い。

そこで指導に当たっては、身近な家庭生活に目を向け、家庭生活が家族や地域・社会に支えられていることや、主体的に家庭生活に参加することの必要性に気付かせたい。

6 本時の実際

(1) 主題 家庭生活を支える仕事

(2) 指導目標

家庭生活を支える活動に興味をもたせ、自分や家族の生活は家庭の内外での活動に支えられていることを理解させる。

(3) 目標行動

家庭生活を支える活動に興味をもち、自分や家族の生活は家庭の内外での活動に支えられていることが説明できる。

(4) 評価規準

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
家庭生活と地域との かかわりに関心をもち、 自分の生活とかかわら せて考えようとしてい る。			調べ学習や話し合い を通して、家庭生活は 家庭の内外の活動に支 えられていることを理 解している。

(5) 授業設計の視点

ア 身に付けた知識や技術に気付かせるための工夫

自己追求や、相互練り上げの場面でシェアリングカードを活用することにした。シェアリングカードには、思考した内容や調べた内容を全て記入させ、言葉で表現させる。記入した後、同じ内容ごとにシェアリングカードを分類させる。表現したり、分類することにより、思考が整理され、学習内容が実践につながるのではないかと考えた。

イ 課題の解決に意欲的に取り組ませるための工夫

自分の解決方法に自信や見通しをもたせるために、個人で考えた後、グループで練り上げる場面を設けることにした。グループで意見を出させ、さらに他者の意見を聴くことで、自分やグループの意見を客観的に見直すことができ、意欲的に追究活動ができるのではないかと考えた。

(6) 学習過程

過程	学習の流れ	時間 (分)	学習活動	指導上の留意点	教材 教具
導入		10	1 家庭の仕事を四つのグループに分類する。 ・食に関する仕事 ・衣に関する仕事 ・住に関する仕事 ・その他の仕事 4 家庭生活の様子を写した画像を見る。 5 学習課題を設定する。 家庭生活はどのようにして支えられているのだろうか。	2 家庭の仕事について前時の学習内容を振り返らせ、4つの内容ごとに発表させる。 3 問答によって確認する。 4 様々な家庭生活の様子を提示することにより、学習意欲を喚起させる。	1 シェアリングボード 4 画像 5 ワークシート
				25	6 家族だけではできない状況のとき、どうすればいいか調べる。 ・幼児の世話→保育園 ・高齢者の介護→ホームヘルパー 7 調べた内容をまとめたシェアリングボードをビデオカメラを使って、全体で発表する。
	10	9 家族の形態や状況の変化によって、家庭生活は多くの人に支えられる部分があることを知る。 12 自由記述による自己評価を行う。			9 問答により確認する。 10 家庭生活を支える仕事をしている人や、利用している人の話しを視聴させる。
			5	12 自由記述による自己評価を行う。	12 自由記述の自己評価をさせ、本時の学習がこれからの生活や学習に活かされていくことを意識させる。
展開					
終末					